

巻頭特集

水城・大野城・基肄城 1350年事業

宇美町内にある大野城跡の百間石垣

水城・大野城・基肄城 1350年事業とは

宇美町・太宰府市・大野城市にまたがる四王寺山に日本最古の古代山城「大野城跡」があります。そして、この大野城跡に関連する遺跡に「水城跡」と「基肄城跡」があります。
平成26年に水城が、平成27年に大野城と基肄城が築造から1350年を迎えることから、平成26・27年の2年間、これらの史跡を住民にとって身近な史跡として「まちづくり・地域づくり・ひとづくり」に活用していくため、関係自治体（筑紫野市・太宰府市・春日市・大野城市・宇美町・基山町・福岡県・佐賀県）が連携して、水城・大野城・基肄城1350年事業実行委員会を設立し、城跡を活かした様々な事業を実施することになりました。



大野城跡に残る建物跡

日本最古の古代山城 大野城跡とは



大野城跡は、西暦665年に築造された文献上での日本最古の古代山城で、国指定特別史跡に指定されています。「大野城跡」という名称から、城の範囲の大半が大野城市にあると思われる人が多くいますが、山城の遺構部分の約80%が宇美町にあります。

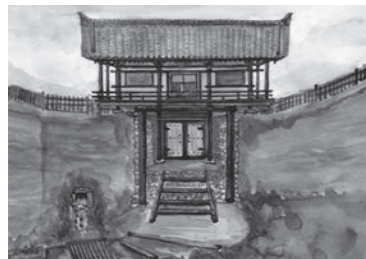
なぜ大野城は築城されたのか

西暦660年、当時、朝鮮半島にあった百済という国が、唐と新羅の連合軍によって攻められ、滅亡してしまいます。百済は大和朝廷に援軍を要請し、これに呼応した中大兄皇子は、西暦663年、百済を救援するため、朝鮮半島に出兵します。これが、教科書にも登場する有名な「白村江の戦い」です。救援に向かった大和朝廷でしたが、唐・新羅連合軍に敗れてしまいます。この結果、次に連合軍が攻めてくるのが想定されたため、当時、九州における政治・軍事・外交の拠点であった太宰府政庁（現在の太宰府市役所近くの都府楼跡）を守るため、664年に水城（太宰府市と大野城市にある堤防跡）を造り、その後、665年に大野城と基肄城（筑紫野市と基山町にまたがる基山に築かれた山城）が築造されるのです。つまり、水城・大野城・基肄城の共通点は、太宰府政庁を守るためということになります。
なお、築城には、百済から亡命してきた高官の憶礼福留と四比福夫らの技術指導があったことが記録に残っています。

大野城跡の中はどのような感じなの？

大野城跡は、四王寺山を全長約8kmにもなる長い土塁で囲んだ巨大な山城です。土塁というのは、土でできた城壁のことです。質の違う土を数mごとに積んでは叩きしめるといった工法で長大な土塁をつくっています。
谷の部分には石垣をつくっています。なかでも、宇美町側から県民の森センターに向かう途中にある百間石垣は、全長約180mにも及ぶ立派な石垣です。
城には、必ず出入口が必要です。現在、9箇所で城門跡が発見されています。左のイラストのような城門があったと想定されています。

お城の中には、70棟以上の礎石建物跡が見つかっています。また、頂上の駐車場付近の焼米ヶ原と呼ばれる場所では、炭化した当時のお米を拾うことができます。
なお、古代山城なので熊本城のような天守閣はありません。



大野城跡の城門復元イメージ図
(宇美町在住 山本義和さん画)

各種イベントを開催

シンポジウム・講演会・企画展など様々なイベントを計画しています。8月23日(土)に太宰府市において記念シンポジウムが開催されます。また、宇美町独自の事業として、10月25日(土)には、「日本最古の山城をめぐる 宇美町 大野城跡ウォーキング」を計画しています。詳細は、広報等でお知らせします。「水城・大野城・基肄城1350年事業」は、宇美町の歴史を見つめなおすいい機会です。ぜひ様々なイベントに参加し、郷土の歴史について学んでみませんか。



大野城跡からは福岡市近郊が一望できます
(昨年の大野城跡ウォーキングの1コマ)

問い合わせ 【社会教育課】 TEL 933-2600